

1. 開催年月日 平成 26 年 9 月 26 日 (金) 10 時 00 分～12 時 00 分
2. 開催場所 岐阜県可児市広見七丁目 90 番地
株式会社ケーブルテレビ可児 多目的ホール B
3. 出席委員数 7 名 (欠席 1 名)
4. 事業者側出席者数 3 名
5. 議 題 1. 番組試聴および審議
2. 通常番組について

6. 審議内容

1. 番組試聴および審議

次の 2 番組を試聴し、審議した。

(1) 9 月 6 日 (土) 16:00～「学園ラジオ」

パーソナリティ：東濃実業高校 放送部 (第 1 土曜日担当)

- ・担当高校は異なるが、昨年度聴いた「学園ラジオ」より随分良くなっている。しゃべり方の歯切れも進行のテンポもよい。番組構成が明確になり、企画力が感じられるようになった。今後が楽しみである。
- ・出演者の家族や知人だけでなく、東濃実業高校がコミュニティラジオで放送している意義が盛り込まれていくとよい。
- ・放送局での体験が部のレベルアップにつながるよう、局側は学習の場としても役割を果たせるのではないか。
- ・BGMのレベルが大きいためトークが聴きづらい。
- ・複数人で話しているが、進行役がはっきりしているので聴きやすい。
- ・今どきの高校生の感性が興味深く、異なる世代として楽しめた。
- ・美濃和紙会館について、どのようなところが良かったのかもっと聴きたかった。ひとつの話題を掘り下げて話ができるとよい。

(2) 9 月 19 日 (金) 14:00～「懐かしの昭和歌謡」

パーソナリティ：昭和太郎

- ・とてもいい番組だと思う。自身は昭和太郎さんと世代が異なるが、曲と曲の間にエピソードや解説を話してくれるので、とても面白い。さらに、説明が不要なほど有名な歌手であっても、若い世代を意識して紹介してもらえると新しいリスナー層が獲得できると思う。
- ・話し方が時々訛るところに親しみがわく。

- ・昭和太郎さん所有の貴重な音源が活かされている。70代の年齢で頑張っておられることに、とても好感を持った。目の悪い高齢者でも、新聞は読めなくてもラジオは聴ける。地域にうおいを与える番組のはしりになってくれたらと思う。

2. 通常番組について

- ・7月19日から8月19日まで放送した盆踊り音楽特集は、紹介や解説がなかったので分かりにくかった。可児市音頭も選曲してもらいたかった。
- ・若者言葉のイントネーションに違和感を覚えるパーソナリティがいる。
- ・ある番組で加茂野小学校インフルエンザ発生話題になった際、可児市在住で子どものいるパーソナリティによる「可児市の学校は、発生したという話は聴いていない」等の情報は主婦や地域住民ならではのもので、とても価値があると思った。
- ・FMららについて「知らない」「聴いたことがない」という意見が大変多いので、災害時に有効であるために、PRを重視していかなければならない。
- ・情報の迅速性以外にも、コミュニティFMが大きな役割を果たした事例がある。ひとつは、その地域に住んでいないとわからない情報を放送できること。もうひとつは、災害が起こったあとの心の癒しに大変大きな役割を果たしたこと。こうした見落とされがちな点にも注目すれば、コミュニティFMはより地域に貢献できる存在になると思う。

以上の意見が出され、全員承知した。